

なるほどの♪



学校教育担当  
キャラクター  
甲斐善之助

# 西部教育局からのお役立ち情報

## 今月のトピック紹介版

7月号

**「チーム学校」での確実な授業改善が、  
子どもに確実に力をつける!!!**

6月13日、研究主任等情報交換会を開催し、今求められる学力を実現する授業づくりについての協議を行いました。

子どもの課題を解決し、確実に力をつけるためには、「チーム学校」での確実な授業改善が必要です。そして、チーム全員による授業改善の実現には、校内授業研究のマネジメントが大きく影響します。

本号では、2学期のスタートに向けた7、8月の研究推進モデル案について紹介していますので、参考にしてください。

**「チーム学校」⇒「チーム中学校区」で  
生徒指導研修の有効性を高める!!!**

長期休業は、普段なかなかできない企画に思い切って取り組めるチャンスでもあります。これまでの事案に学び、今後想定される様々な事案についての対応や未然防止にかかる取組等を、小中でともに協議していくことが大切です。中学校区でのチーム対応を具体化していくことが、子どもにとって有効な生徒指導につながります。

**「考え、議論する道徳授業」を創造し、  
「特別の教科 道徳」(道徳科)の充実を図る!!!**

平成27年7月には、小学校及び中学校の学習指導要領解説、特別の教科道徳編が公表され、その内容が明らかになりました。教科化に向けた動向については、各学校とも注目されていることと思います。

本号では、本年度6月時点で公表されている内容に基づき、道徳の授業づくりについて提案していますのでご活用ください。

# 「チーム学校」での確実な授業改善が、 子どもに確実に力をつける!!! 7月～8月の校内授業研究をマネジメント



～校内授業研究で、こんな悩みはありませんか？～

- ① 「何をするのか」手法の研究に終始し、「何が課題なのか」見えにくくなってきた!
- ② 全職員の研究に対する納得感を高めたい!
- ③ 共通理解はしたけど、共通実践がなかなか進まない!
- ④ 先生や子どもたちが、達成感を感じる良い方法はないのかな?

## STEP 1

「研究の入り口は、子どもの事実から」  
⇒学力データを分析し、子どもの良さや課題について合意形成

「〇〇法」等の手法に先生方の関心がいくと、子どもの事実が見えなくなってしまいがちです。まずは、教職員で学力データをベースに話し合いを重ね、課題を共通認識し、共通実践への意欲を高めます。

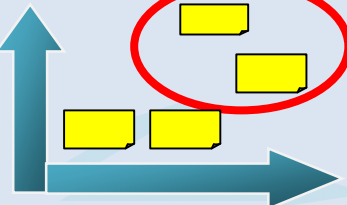


「思考力・判断力・表現力」の育成については、全国学力調査のB問題を解いてみるのもよいでしょう。今求められている学力が全職員で実感でき、研究の方向性の参考となります。

## STEP 2

「全職員で着実に共通実践を進めることが、子どもの学力向上に」  
⇒実践できる内容を合意形成

全職員で確実に実践できる



ツールを使った話し合いを通して、全職員で確実に実践できる内容を焦点化するのもよいアイデアです。

効果大

## STEP 3

「データの可視化による変容の自覚は、子どもと教師に自信を生む」  
⇒成果指標を設定し、子どもの変容を実感できる研究に



テストの活用、意識アンケート等で成果指標を設定することが考えられます。ある学校の授業研究では、算数科思考力・判断力・表現力の伸びを実感する成果指標として、  
□前に習ったことが使えないか、いつも考えていますか？  
□考え方を話し合う時に理由を挙げて説明していますか？  
等の設定がなされています。

## 2学期スタート

7月～8月に、2学期の授業づくりについて考えてみませんか？

6月13日に開催した研究主任等情報交換会では、7月～8月の校内授業研究づくりのプランニングを行い、すべての先生方が一つのチームとなり、確かな学力の向上を図る方策について検討を行いました。

校内授業研究において、一人一人の先生にとっての主体的な場を設定したり、協働的な話し合いを展開したりすることにより、教職員の総意を生み、すべての先生による確実な実践を進めることが、学力向上のポイントとなります。話し合いの時間が確保できるこの夏に、2学期の取組について考えてみませんか？

# 「チーム学校」⇒「チーム中学校区」 で生徒指導研修の有効性を高める!!!



夏季休業期間は、子どもがいったん学校を離れ、家庭や地域の中で過ごす大切な学習の機会です。一方で、子どもの姿が見えにくくなること、事案が発生した時の対応等、学校にとっては心配が多い時期でもあります。子どもが2学期を元気に迎え豊かに過ごすために、様々な事案の未然防止・早期発見・早期対応について、「チーム学校」や「チーム中学校区」で生徒指導にかかる研修等を開催する学校・校区も増えてきています。

この時期をとらえた、有効性の高い研修等の企画に是非チャレンジしてみてください。

## 例えば その1

いじめに関する研修ツール(国立教育政策研究所更新版)を活用して

### 【質問項目(一部抜粋)】

- |  |          |
|--|----------|
| 「いじめとは、一方的かつ継続的に行われ、深刻な被害を受けているものだと思う」   | (はい・いいえ) |
| 「いじめられる子どもはだいたい決まっていると思う」                | (はい・いいえ) |
| 「子どもというのは、いじめたり、いじめられたりしながら成長していくものだと思う」 | (はい・いいえ) |

1. 個別に「自己点検シート」に回答し、アドバイスを確認する。
2. 小中別、または小中混合のグルーピングを工夫し、協議をとおして共通の目合わせをする。
3. 感度や認識の相違点を確認し、チーム中学校区としての対応を協議・共通理解する。

## 例えば その2

これまでに発生した中学校区での成功or困難事例の検討をとおして

### 1. 1学期末アンケートでいじめの訴え？

(学期末アンケート調査で、B君が「いじめを受けた」と回答。

B君と面談で確認するなどした結果、以下の事実があった。)

体育の時間にバスケットボールの試合をした際、球技が苦手なB君はミスをし、A君からミスを責められたり他の同級生の前でばかにされたりし、それによりB君は、とても嫌な気持ちになりました。見かねたC君が「それ以上言ったらかわいそうだよ」と言ったところ、A君は、それ以上言うのをやめ、それ以来、B君はA君から嫌なことをされたり言われたりしていません。その後、B君もだんだんとバスケットボールがうまくなっていき、今では、A君に昼休みにバスケットボールをしようと誘われ、それが楽しみになっています。

### 2. 校区のお店から万引き確認の電話を受けたら？

### 3. 夏季休業中に子どもから自殺予告の手紙を受け取ったら？ 等々

あなたなら  
どうする？

学校・校区として  
どうする？



1. 個別に各事例についての対応を考える。
2. 小中別、または小中混合のグルーピングを工夫し、よりよい対応や事後指導、また、本事案を引き起こさないための未然防止的取組について、小中の系統を意識した方策を協議する。
3. 中学校区としての具体的な取組を1～2つにしぼりこみ、実践につなぐ。

# 「考え、議論する道徳授業」を創造し、 「特別の教科 道徳」(道徳科)の充実を図る!!!

道徳の教科化に向けて、西部地区でも各学校や小教研等の道徳部会における理論研修・授業研究等も活発化しています。小学校では平成30年度、中学校では平成31年度からの検定教科書を導入した実施に向け、ここで改めて道徳の教科化についてのポイントを確認したいと思います。



教科化によって何が、  
どう変わるのですか？

## ～学習指導要領改訂のポイント～

- ◆ **目標**：明確で理解しやすく簡潔な表現に  
➢ 道徳教育、「特別の教科 道徳」の最終的な目標は「道徳性」を養うこと
- ◆ **内容**：発達段階を踏まえて体系的に  
➢ 内容項目のまとまりの順序と内容の見直し  
➢ 手がかりとなるキーワードの活用  
➢ 現代的課題の充実  
(情報モラル、持続可能な発展 等)
- ◆ **検定教科書を導入**
- ◆ **指導方法の工夫**
- ◆ **学習評価**

道徳授業の改善・充実の  
キーワード!!!

## 考え、議論する道徳授業の創造

子供が…  
**主体的に、自分との関わりで考える**

読み物の登場人物の気持ちに共感したり、心情を理解したりすることに終始する授業ではなく…

**自分との関わりで考えたり、自分自身を見つめたりする授業へ**

例えば…

今までに、家族のことを考えて役に立てた事はあったかなあ…。



今の自分のよさは…。これからは〇〇を頑張っていこう!



子供が…  
**多様な考え方、感じ方と出会い、交流する**

何が大切か、どうすることが望ましいのか等、決まりきったこと、望ましいと思われることを書かせたり言わせたり、特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したりする授業ではなく…

**どのようなわけで大切なのかを考えたり、どうすることが考えられるのかを考える授業へ**

例えば…

◇◇さんはそんな風に考えるのね。私なら、こんな時どうするかしら…。



子供たちがこれからの人生で出会う様々な場面で、**子供たちが自分で考えて行動できる**よう、様々な道徳的価値を多面的・多角的に考えることが大切です。

人としてよりよく生きていくために、自分のことをじっくり見つめて、考えるのは大切ななあ。



**一人一人の子供が自分の考え方、感じ方を明確にし、  
自己の生き方についての考えを深めることができる授業の実現**



## ＜進捗状況と今後の予定＞

	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度～ (2018～)
中教審 審議	10月 2月 3月				
答申					
学習指導要領改訂					
学習指導要領解説 刊行					
評価に係る検討 (継続中)					
検定教科書					
著作・編集					
検定					
採択・供給					
検定教科書 使用開始 小:H30年度～ 中:H31年度～					

27～29年度 移行期間  
新学習指導要領の総則、「特別の教科 道徳」(道徳科)の趣旨・内容を踏まえた取組が可能

平成27年7月に公表

「特別の教科 道徳」(道徳科)による教育課程編成等

※ 新学習指導要領に関する教師用資料の作成・活用

これまで通り、道徳教育は「特別の教科 道徳」を要として学校の教育活動全体で行うことから、全体計画を作成して**全教師が協力して道徳教育を行う**ことが大切です。



## ～共通理解・共通実践のために～

- ・「別業」に示した各教科・領域との関連と今年度の重点内容項目の整合を図る。(例)重点内容項目のみ「別業」に記載する
- ・年間指導計画に沿った計画的な指導が実現できているのかどうか確認する。(例)月例職員会や研究日等、学年団や全学年で設定する

\*道徳科における評価については、現在も有識者会議で議論が進められ、7月開催予定の会議において議論をまとめた上で示される予定です。現在、文部科学省HPに評価にかかわる方針が示されています。

【参照】文部科学省HP → 教育 → 小学校、中学校、高等学校 → 道徳教育 → 「道徳」の評価はどうなる??

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/icsFiles/afieldfile/2016/06/17/1222218\\_001.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/icsFiles/afieldfile/2016/06/17/1222218_001.pdf)